
そんな僕らの My Life

BloodyBrandy

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そんな僕らの My Life

【Nコード】

N5989U

【作者名】

BloodyBrandy

【あらすじ】

最近流行の(?)VRMMORPG、転移、憑依、転生、etc.

但し「ぼくのかんがえたさいきょうのしゅじんこう」では無い。

「かつこいいひつさつわざ」は多分出ません。

不特定多数の異性と不純な交友をする展開にはならないでしょう。

「小難しい設定や考察は嫌い！チートとハーレムがありや良いんだよ！」という方は、おそらく肌に合わないと思われるので、即

時^どこ^こば^っく^げっ^たう^えい^じゃ^すと^げた^うと[！]が適切かと愚考致します。

そんな僕らの My Life (はじまる前1) (前書き)

不定期更新です。ご了承ください。

用法・用量を守って適切にお読み下さい。

万が一肌に合わない時は読むのをやめ、すぐに別の小説で洗い流して下さい。

万が一不良品等ありましたら、恐れ入りますがサポートセンター(作者)までご連絡下さい。

そんな僕らの My Life (はじまる前1)

キャラクターデータを設定して下さい

目の前の宙に浮かぶスクリーンに、映し出されている文章。
そつと手を伸ばし、その端に触れてみる。
タッチパネル式のスクリーンを触った時の感触と、そう大差は無い
ようだ。

「ハイテクなのねえ…」

小さく呟きつつ、記入項目に目をやる。

4

「Name・・・Age・・・Sex・・・FaceTypeと・・・
ああこれ髪の色ね・・・身長に体重？
・・・あとは・・・っと、職業(Job)はどうしよっか」

ふむ、と一瞬考え込むが、すぐにスクリーンに目を戻す。

「んー、コレかな？」

列記されているジョブ名の一つに目をやり、軽く触れる。
ふつと画面が明るくなり、次の一文が表示される。

この内容でキャラクターを作成します。よろしいですか？

Y e s / N o

俺は迷わず『Y e s』の文字に触れた。

『そんな僕らの M y L i f e (はじまる前1)』

——まるで現実世界だな——

船上から、ポリゴンで形成されている筈の仮想空間の街を見た俺の、最初の感想だった。

バーチャルリアリティ
VRとはよく言ったものだ。

俺は、旧大陸から開拓船に乗り大海を渡りこの『ニューメインランド新大陸』にやってきた…

『冒険者』という設定だ。

「で。これから着くのが、始まりの街『ニューポート』と」

俺の降り立つ予定の場所は、この大陸唯一の港町。
通称『忘れられし町』と、公式HPにはあったか。

ぐるっと甲板を見回すと、周りには別の冒険者がひしめき合っている。

さすがにサービス開始日だけのことはある。

満員電車顔負けの混雑ぶりだ。

*「諸君！ いよいよ目的地だ！ 上陸の準備はいいか？ タンスの中は調べたか？」

唐突に声がしたと思ったら、いつの間にか一段高い所にNPCが立ち、演説を始めていた。
船長だろうか？ どうやらこれがOPIVENTのようだ。

内容を要約すると以下の通りである。

- - - - -

この新大陸が発見されたのは、約20年前。

その頃、旧大陸において約100年もの間続いていた戦火は、ようやく収まろうとしていた。

旧大陸の各国は戦災で荒れ果てた国土の復興に取り掛かるが、多くの問題に直面する。

膨大な難民、荒れ果てた耕作地、深刻な食糧不足、盗賊へと成り下がった傭兵集団…

極度に悪化した治安の早急な回復、破綻した財政、再建を待つ荒廃しきった農村…

猛威を振るう疫病、全世界的な天候不順と耕作人口の減少に端を発する飢餓問題…

崩壊した秩序の再構築、戦乱の中で低下したモラル、各地に点在する無法地帯…

…山積みの難題。

その解決方法として、各国代表は一つの合意に達する。

それが、プロジェクト・テラフォーミング
『大開拓計画』

俗称『棄民政策』である。

元傭兵を中心とした犯罪者をはじめ、孤児、浮浪者、難民、娼婦…

また、国によっては政敵や反体制派、あるいは戦犯に対する懲罰で…

余激人口の『島流し』先として、新大陸が使われたのである。

無論、名目は『新たな希望の大地の開拓という栄誉を与える』であつた。

そして、最初の開拓地『ニューポート』には、各国の共同軍が防衛態勢を敷いた。

この大陸への出入りを完全に管理する為である。

この政策により、各国は貧困層や犯罪者層…いわゆる『不良国民』を大幅に減らし…

荒廃した農地や壊滅した産業の復興まで、なんとか食い繋ぐ事ができたのである。

しかしそれは、『島流し』にされた側にとっては…

戦火の時代以上の地獄であつた事は、想像に難くないだろう。

食糧は狩猟と採集に頼らざるを得ず。

ある者は獰猛な野獣^{モンスター}によつてその命を落とし…

またある者は新大陸特有の疫病により倒れ…

僅かな食料を奪いあい、血で血を洗う争いを巻き起こした。

大戦終結後すぐに開始されたこの計画により、最初の5年間で実に旧大陸の残存総人口の5%…

75万人という人間がこの新大陸に運ばれてきた。

しかし、最後の記録が残っている10年前…植民開始から7年後の時点において…

確認された人口は、僅か5万人を下回っていたのだ。

そして、運命の刻…10年前。

突如として、大規模なモンスター群の多数同時発生と…

…それに伴う様々な野獣・亜人・その他大小問わずモンスターの群々の『大移動』が発生。

新大陸各地に建設されていた植民都市・砦・関所等々は、片端から瓦礫と化した。

ここまで生き残ってきた仲間の数を大幅に減らしながらも、

港を目指し、必死に『始まりの街』まで逃げてきた避難民達は…

…そこで、絶望を感じる事となる。

—— 船は、全て出港した後だったのだ。

各国合同派遣軍という名の、監視役…警備兵と役人、

それと、ほんの一握りの商人だけを乗せて。

「名誉ある帰還」より2年後、改めて各国合同による『調査団』が派遣された。

そこで彼らが目にしたモノは…

夥しい数の、白骨化した死体と…

廃墟と化した、かつて町だった痕跡のみであった。

一名の生存者も見つける事は叶わず、何らなす術も無く…

調査団は引き返さざるを得なかったのである。

- - - - -

*「——その後改めて港を再建し、市街を整備し、城壁を築いた！

しかし、未だ始まりの町の外側においては、詳しい情勢は一切不明である！

諸君ら冒険者一堂においては、旧村落や城塞に赴き調査を行う事、

そしてもし生存者を見つけたならば、速やかにその保護を行ガガガッピーガガガッピーガガガ

全く唐突に、船長らしきNPCの演説は中断してしまった。

地味に盛り上がってきた所だっただけに拍子抜けである。

「おい、なんか壊れたぞ…」

「バグったかな？かな？」

「ちょwwwいきなりかよwww」

「サーバ飛んだ？」

「出だしからオチがついてしまったと」

「クレームだクレームだw」

「GMコールしてみる？」

「まってるや治るっしょ多分」

「どんなプログラムだコレwww」

壊れたみたいにピーガー言ってる船員NPC。

徐々にワイワイガヤガヤと雑踏を醸し出す船上。

——我ヲヲ、見捨テシ、者達ニ…

災イ、アレ——

——突然、周囲の全てが凍結したかの如く、固まった。

「（…え？）」

思わず零れそうになった言葉は、紡がれる事は無かった。

声が出ない、いや、唇が動かない。

慌てて周囲を確認しようとし——首が動かない。

眼球が動かない、視界が動かない、足が動かない、手が動かない、息ができない！

「（なんだ！？ 何が起こってる！？）」

システムエラー？ 接続が切れた？

バグ？ あるいはイベント？

それとも……

全身の筋肉が石化したかのように、見えない何かに拘束されている

かのように――

――すべてのものが、うごきをとめた。

音が止まり、光が止まり、感覚が止まり、世界が止まった。

動くモノは、何一つ無い。

船外の波も、風に揺れる帆も、NPCの髪も、空に浮かぶ海鳥も、

煌めく陽光も、少し傾いている甲板も、騒いでいた群衆プレイヤーも、

指一本さえ動かない、まばたきすらできない、

皮膚が触れている空気は熱いのか、冷たいのか、

どれくらいの時間が経ったのか、1分か？ 1時間か？

今自分は本当に二本の足で立っているのか、浮いているのか、

体が重いのか、軽いのか、目に映る世界は白いのか、黒いのか――

…あれ？

…どこだっけ？

俺はボクは、今年30の16の、商社勤務の実家の畑を手伝っていた、

サラリーマン冒険者候補生――

新作のゲームの広告を見て冒険者募集の噂を聞いて、

ネットで予約を申し込んで村から冒険者ギルドまで旅をして――

運良く購入できて運良く参加枠に入れて、

さつき初ログインしてギルドで冒険者登録をして――

作成したキャラはギルドでの登録内容は、

日本の東京都出身サンザーランド王国ノール村出身――

「人間族、男性、名前は『ジロー』」

…あれ？

（続く）

以下参考：

大陸年表（旧世界暦）

・1580年
新大陸発見

・1582年
旧大陸100年戦争終結

・1583年
世界講和条約締結
『大開拓計画』開始。

・1584年
共同管理区『ニューポート』完成。
ここから『移民』数が急増する。

・1585年

ニューポート周辺に多数の村落が建設され始める。
中部山地にて錫鉱山、銅鉱山が発見される。

・1586年

第二都市『ニューアムステルダム』の建設が始まる。
北部山脈にて炭鉱、鉄鉱石鉱山が発見される。

・1587年

第一―第十二防衛城塞群の建設が始まる。
奥中部山岳地帯にて銀鉱山、ミスリル鉱山が発見される。

・1588年

新大陸への『移民』数が75万人を超えたと発表。
第三都市、第四都市案が了承される。
各地で現地亜人種の集落との関係が悪化。

・1589年

奥北部山脈にて金鉱山が発見される。
各地の亜人種集落との抗争が激化。
大規模な風土病の伝播発生。

・1590年

悪疫が猛威を振るう。多数の集落が全滅。
調査団がこの年の人口統計調査にて「生存者合計は5万人」と報告。

・1591年

南部山脈にて宝石鉱山が発見される。

沿岸部に大規模プランテーションの建設進む。
労働奴隷の新大陸への移送が活発化。

・1592年

新大陸への『移民』数が100万人を超えたと発表。
各地でモンスターの活動が活発化との報告。

各地の亜人種集落が連合し『移民』との抗争に参入。
『竜種』の目撃情報が相次ぐ。

・1593年

モンスター、野獣種、亜人種等の『大移動』が発生
各地の市街、村落、城塞が陥落する。

各国合同派遣軍の『名誉ある撤退』によりニューポート陥落。

・1594年

データ無し

・1595年

旧大陸各国による『調査団』が派遣される。

・1596年

データ無し

・1597年

再びニューポート周辺地域に『調査団』が派遣される。

・1598年

データ無し

・1599年

各国合同派遣団が送られる。

ニューポートの再建及び城塞化が始まる。

・1600年

非正規国軍による新大陸の調査を行う方法として「冒険者」を制定する事が可決される。

・1601年

旧大陸に冒険者ギルド本部が設立される。

2年後に新大陸に派遣される冒険者の募集が始まる。

・1602年

冒険者ギルドニューポート支部が設立される

・1603年

冒険者を中心に構成された『大陸調査団』が新大陸に派遣される。

↑ ↑ ↑

next coming soon...

そんな僕らの My Life (はじまる前2)

「どーしてこうなった」

溜息を一つ吐き出しつつ、ボソリと漏らす。

こんな事をいった所で何が変わる訳でもないが…
かといって、今の状況を受け入れられるかというと、それはまた別の話だ。

「あー…イイ天気だねえ今日も」

ポリゴンの空だけどな。

人工的につくられた、目に優しい自然色。

ここ最近、見上げる機会が増えた気がする。

ゴンッ！

ツッー！

鈍器で後頭部をはたかれた。
前のめりにこけそうになる。
思わず手で頭を覆う。

「酷い…」

痛いじゃないか！

後ろを振り返り、キツと睨む！

「何するんさっ、この暴力女っ」

「戦闘中は集中しろって言ってんでしょうがああああああっあああ
あああっ！！！！！」

『そんな僕らの M y L i f e (はじまる前2)』

そもそもこんな事態になったキツカケは、とあるゲーム業界専門雑誌。

年明け早々、何の前振りもなく組まれた、突然の大特集。それが全ての始まりだった。

『あの国民的大人気シリーズ最新作は、なんとVRオンラインゲーム！』

『今年最高の新作、年末にサービス開始か！？』

『業界関係者も期待度MAX！』

『国内ハードメーカー最大手、同時に新型機を発表！ 専用ソフト第1号か！』

『早くも史上最高評価作との呼び声！』

『発売予定ゲーム対象のユーザー人気投票でダントツ首位！』

『ここまで極秘に開発！ 製作費は数百億円？！』

『あのタレントも興味津々！ 芸能界も歓迎ムード！』

『MMORPG界に激震！ 前作ファン歓喜の声！』

『ゲーム機販売戦略に大異変の予感！ 世界も興味津々！？』

『ココが違う！ 新VRMMO技術とは！？』

『開発会社、株価は急上昇！ 関連会社株も！』

『経済効果は1000億越えか！？ 投資家も注目！』

etc...

TVや雑誌では大々的に特集が組まれ、経済紙はおろか一般紙の一面にまで取り上げられる騒ぎ。

無論ネット界においては言うに及ばず、某掲示板では随所にスレが乱立。

余りの事態に見かねた管理サイドが、独立スペースを用意する事態に。
瞬く間に『旬』の話題となったこの作品は、世間の話題を総浚いにしてしまったのである。

それから約半年。

いよいよ夏を終え、年末のサービス開始が見えてくると…
各種メディアもファンもスレも、色々とみなぎってき
た所であつた。

が…

オープン/クローズに関わらずテスター募集等は一切無く。
テスト状況・作成状況はベールに包まれたままだった。
そして、秋も深まり、年内も残す所3か月となり、

『サービス開始延期か?』

『開発に遅れ? 年末開始は絶望か!?』

等の記事が出始めた頃になって、突如として開発中のゲーム情報が公開され始めた。

ある日突然「公式サイトが立ち上がった!」という情報が流れた。
瞬く間に数百万アクセスが殺到しサーバがダウンした。

急遽サーバを増強して公式サイトが再開された。
そこにはユーザーが書き込み可能な「公式フォーラム」が設置されていた。

その情報がネットを駆け巡ると、瞬時に書き込みが殺到しまたもサーバーがダウンした。

そんな事が数度繰り返されるも、日々更新され新情報が掲載されるその公式サイト。

とある調査会社によると、一時期は大手検索エンジン並みのアクセス数を叩き出したとか。

某掲示板においてもその流れは加速。

世界設定、エリア風景、プレイヤーキャラ。

アイテム、魔法、武器、敵キャラ。

特殊能力や技や戦術等々、無数のスレが乱立。

そして、最大の関心事、『販売情報』であるが…

その情報がメディアを駆け巡った直後から…

ネット／電話／FAX問わず問い合わせが殺到した。

なぜならば、それは誰もが想像しえなかった方法…

「^{くしびき}抽選」だったのである。

当然と言うべきか、予想倍率はすごい事になった。

サービス開始時の参加者募集人数が、大方の予想よりも一桁低かったのである。

ネットオークションでの転売の相場が早くも囁かれ、コネだの裏枠だのといった話題が掲示板を乱舞する。

信じてもない神様に祈りつつダメ元で申し込んでみたのは、俺だけでは無かった筈である。

——そして、届いた一通の当選通知。

仕事から帰ってきた時にポストに入っていた封筒。

家に入って早々に開封し、奇声を上げ隣から苦情が来た。

そして発売日、有給を取って玄関で正座して待っていた俺が居た。
宅配便のお兄さんがあんなに待ち遠しかったのは、人生初である。

受け取った荷物をハアハアと息をしながら開封し、

取り出したソフトのパッケージを見てひとしきり感動に浸り、
馬鹿丁寧に取り出し設置した新型ハードに敬礼し、

一つ深呼吸してから早速ログインし、キャラを作成し——

「——船の上でオープニングイベントが始まった時には、

俺勝ち組wwwwサーセンwwww落ちた奴ざまぁwwww

とか考えてたけどさぁ……

…そのままログアウトできない生活に突入とか、なにこれ超怖い」

今更だけどさ、と呟いてみた。

空を見る。

今日もイイ天気である。

泣けてくる位に。

今俺が居るのは、城塞都市ニューポートから徒歩数十分の平原。
所詮、やってる事はレベル上げだ。

とはいえ、クレリック白魔術士という純然たるノウキンではない後衛職を選んでいる身。
かけだし序盤のPTにおいてできる事と言えば、タンク良くも悪くも薬草役だ。

いやまあ「オマケ初歩弱体魔法」も使えなくはないけども。
MP効率を考えるとむたつかい低費用対効果になつてしまう。

「逆に使いまくって熟練度スキル上げてればまた違つかもだけどさ…」

んな事してたらPTキック解除されそつだ。

「…真面目にやんないなら、今すぐ蹴^{ボス}つてあげてもいいんだけど？」
「H A H A H A！ 冗談ガウマイネ隊長！」

^{ソーサラー}黒魔術師なPTリーダー、こっち見んな。

やれやれ…と首をコキコキ鳴らしつつ、^{ノウキン}前衛に^{ヒール}初步回復魔法を掛ける作業に戻る俺であった。

「…どーしてこーなった」

（続く）

そんな僕らの M y L i f e (まずはレベル上げ1)

キイキイ、キイキイ、と鳴く海鳥の声。

寝転がっている地面の緩やかな揺れと、船腹に当たる波の音。

潮風を受け僅かに軋んだ音を立てる、マストと畳まれた帆。

……音？

——意識が、浮かび上がってきた。

なんか頭痛い、てか重い。

なんだ？ あれ？

下…木？ 甲板？

なんでこんなトコに寝てる？

あれ？

確か、ゲーム…ログインして…

イベント？ あった…よな？

で…あれ？ なんか、途中で…？

あれれ？

「…ここは、どこ？　俺は…誰？」

そんな、あまりにもベタなセリフから始まった。

——今思い出すと超恥ずかしい。やめて、こっち見んな！

目が覚めたのは、船の上。

何故か倒れている俺…とその他多数のプレイヤーらしき連中。

周囲には…港。

既に棧橋と船は接続されている。

いつの間にか到着していたようだ。

…よく見ると、転がっている他の連中もちろほら動き始めている。

とつと船から降りるか…と思って立ち上がりかけた瞬間、視界が揺れ——？

——コケた。

ぐわあん、と頭の中が揺れた感じ。

ちよつと出そ^{リバース}う…

なんなんだ一体。

脚に力入らん、くそう。

うー…、と変な声を立てつつゴロンと転がる。
ちよっと休もう。冷たい水欲しひ…

目を閉じ、ゆっくり呼吸する。

びーくる、びーくる、と心の中で唱えるという儀式はさておき…
重い体をダルそうにのそつと動かし、首を横に向け、改めて目を開く。

…だんだん、少しずつ、思い出してきた。

ゲーム…は、どうなった？

『そんな僕らの M Y L i f e (まずはレベル上げ1)』

ジローです…

その後、NPC船員集団に、甲板から強制退去されました…
港内の作業スペース一面に衰弱冒険者軍団が転がっているという凄
い光景。

ジローです…

ウトウトして気が付いたら、周囲が恐慌状態でした。
ログアウト
脱出できないそう。やだなにこれ怖い。

ジローです…

自分で色々と試行錯誤して状態とか性能とか確認する前に、誰ぞが
大声で連呼してました。
シャウト
簡単にゲーム的な性能一覧表が見れるらしい。
マイリスト
ついでに言うと、自分の状態の中には他の方々（プレイヤー）に公
開できる物とできない物があるとの事。
オフ

早速、実行してみた。

ジロー / 人間族 / 16yr

白魔術師 : Lv 1 (0 / 1000 EXP)

状態 / 良好

TYPE : 光 / 聖

0 gl

STR	:	10
VIT	:	10
DEX	:	10
AGI	:	10
MND	:	10
INT	:	10
CHR	:	10
LUK	:	10
残 : 0		

ヒューマン デフォルト
人間族の初期値そのままである。

リサーチ
ちなみに収集済公開情報によると…

経験値 1000P 毎に自己強化し振り分け可能な新能力値が増える。
レベルアップ
それとは別に職業ごとに異なる追加能力値が自動的に加算。
ジョブ
ポナナスポイント
リソース

クレリック
白魔術士だと、2LvごとにMNDに、4LvごとにINTとCHRに入る設定だったはずだ。
マインド
インテリジェンス
カリ
オートアップシステム
職業別自動能力上昇で上がる項目以外は、振り分け可能な能力値で
スタイル
自分の成長方針に合わせて調整する事になる。

フーン、って考えてたら港に居る人数が減ってた。

フィールド
外でソロ狩り、街内探索、NPC巡回、etc...
周囲に声を掛けて仲間集団を作ってる連中も多い。
というか俺、完全PT仕様ジョブなわけで。
とつと所属を決めなきゃまずいんだが...

「不味いなア...」

んーむ、と考え込んでしまう。

MMORPG初心者頃の俺なら、とりあえず適当な集団に声を掛けて入れてもらった所だが...

「当たりを引くとは限らない、つと...」

就職やなんだかんだと似通っていて。

入ってみて完全違法労働条件だった事が分かってても、抜けるのに手間も時間もかかるのだ。

無論、集団構成員やその知り合いに聞いてみて「ココは大丈夫だぜ!」と言われた所で、真偽確認不能という点は変わらない。

投資案件や買い付け情報と同じで、個人的に信用/信頼してる人の情報だとしても、無条件に鵜呑みにしては仕事としては失格。
信憑性が必要なのだ。

公正な第三者からの評価以外は意味が無いのである。

「完全にお遊びの中ならそれでも良いんだけどねえ...」

脱出できない時点で、優先順位は固まった。

『サバイバル
生存』だ。

俺は、死にたくない。

その為に何をすべきか？

どうすれば生存率を上げられるか？

どのチームに入る事が目的に適うか？

どんな情報を元にチームを選ぶか？

考えなければ…

「当方レベル上げPT、パーティ黒魔術師、ソーサラー吟遊詩人、バード戦士、ファイター格闘家、モンク盗賊、シーフの5名です！あと一人回復できる後衛さん募集します！」

「乗った！」

シャウト募集に脊髄反射した。そくとつ

構成まあまあ良い感じだし、いいかな？と。
ほら、とつとレベル上げちゃった方が安全だよな？

——実際の所、考え込んでたら思考がどんどん悪化方向になるの
で——ネガティブとにかく何か行動したかっただけなんだなあ、と思い至ったのは
少し後になってからの事。

その時は自分では気が付かなかったが、やはり鬱傾向に陥ってたよ
うだ。おぼろげ

アレコレと自己理論を並べたが、結局自分の不安が解消されるなら
何でも良かった。げんじつ

やだ思い返すと超恥ずかしい、こっち見んな！

まあしかし、と言うべきか。

結論から言えば、俺は幸運だった。ラッキー

飛び込みで参加したPTだが、パーティ目的は共通していた。

『生き残るために、まずレベルを上げる！』

構成員全員が同じ方向を向いている集団
メンバー
チーム

皆なにがしかのネットゲの経験者^{ベテラン}

狩りを始めてみて分かったが、立振舞^{プレイヤー}が素人^{スキルビギナー}じゃない。
これは特に後衛回復職^{うらかた}にとってはありがたい。

そして何より、独自狩^{ソロ}に走らずに、最初からPT^{パーティ}での狩りを考えた
メンバーという事。
目先の効率^{かせぎ}よりも、安全性重視^{リスクマネジメント}がしつかりと頭にある。

前衛^{フロント}がこの考え方を持ってくれていると、自力防衛不可能な後衛回^{うっぴ}
復職^{かた}は非常に助かります。
ええ本当に。

「——かくして、俺は安心して周囲^{よそみ}索敵できる、と……」
「戦闘に集中しなさあああああああいつ！」

(続く)

そんな僕らの My Life (まずはレベル上げ2)

キイイイイイイツ!!

つと雄叫びとも唸り声ともつかぬ音を発しながら、前を走る人影^{デコイ}を追いかけてこちらに向かって突進してくる、体長1m弱の角のあるモンスター^{モンスター}大兎!

その前を、離し過ぎず近づき過ぎずの適正距離^{スタンス}を保ちながら疾走する、獲物牽引役の盗賊^{シーフ}!

ソーサラー^{ソーサラー}黒魔術師の詠唱が終わる!

P T駐屯地の手前まで爆走して来た大兎^{エモノ}の足元を、石の刃が襲う! ヒット^{ヒット}足を強打し一瞬動きが止まった大兎^{エモノ}に、すかさず横から格闘家^{モンク}の拳^{パンチ}が、蹴撃^{キック}が、体当たりが加えられる!

打撃を受けた大兎^{エモノ}が顔を格闘家^{モンク}に向けた次の瞬間、逆方向^{うしろ}から現れた戦士の剣^{ファイター}が大兎^{エモノ}を切りつける!

後は包囲殲滅^{ふくろだたき}である。

吟遊詩人^{バード}は各種能力値一時上昇の言霊歌^{マジック}で前衛^{フロント}を常時支援^{あとおし}する。

黒魔術師^{ソーサラー}はすかさず再詠唱^{リシング}に入る。

誘導役^{つり}の盗賊^{シーフ}は、戦況が安定しているのを確認後、タイミングを見計らって次の標的^{エモノ}を探しにキャンプを離れる。

…そして、白魔術師^{クレリック}は - -

「『^{ヒール}初歩治癒呪文』！
つと、そつち『^{ヒール}初歩治癒呪文』！
もいっちょ『^{ヒール}初歩治癒呪文』！」

こればかりである。
いや、必要なんだけどね？　薬草役。

そして、^{ソーサラー}黒魔術師の再詠唱が完了し、^{エモノ}大兎の反撃行動を阻害！
合わせて、^{フロント}前衛は一気に押込攻撃を入れる！

^{えもの}大兎の断末魔の叫びが発せられる時には、^{うらかた}後衛はさくつと座り込む。
^{キャンブ}先程この駐屯地を離れて次の獲物を索敵攻撃に行った盗賊が戻って
^{ヒーリング}くるまで、自然精神力回復を行うのである。

滑り出しこそ若干噛み合わない動きもあったものの、直ぐに^{ルーチンワーク}連続狩
へと昇華した辺り、さすがは^{ベテランチーム}M M O R P G 経験者軍団。
俺は運が良かったと言わざるを得ない。

そんなこんなで――

「今日で一週間目が…」
クレリック
と、俺。

「そうだねー」
ソーサラー
と、黒魔術師。

「だな」
シーフ
と、盗賊。

「そこそこレベル上がってきましたね」
バード
と、吟遊詩人。

「……」
ファイター
無言で頷く戦士。

「そんな事より早く狩ろうぜ！」
モンク
格闘家、テメエ空気読め。

…そんな、とある朝。

『そんな僕らの M Y L i f e (まずはレベル上げ2)』

初日、一蓮托生^{パーティ}を結成した後、まず各種^{みだしなみ}装備と収納^{いのちづな}道具を確認。

貧弱^{やつつけ}初期装備に溜息を吐き…

アイテムボックス
不可視収納箱がある事に安堵し…

所持初期資金が余りにも乏しい事に涙した。

そして、狩場に出る前にまずは一般道具露店を物色する。

ボーション
回復薬が150G / 1個。
アイウオッシュ
目薬薬が200G / 1個。
アンチドート
毒消薬が250G / 1個。
キュアバラライズ
麻痺治療薬が300G / 1個。

...

各自の所持資金はおじつかい
ハードモード
は500Gだよな？
何この超難易度。

「序盤は、ステータス異常系は無い？」

「そうとも限らん」

「他のはともかくHP継続減少は怖いね」

「

.....」

「白魔術師さんいける？」

やめてこっち見んな。

「初期段階だと、初歩治癒呪文だけですー」
「そっか。最初あった方が良いかも」

「うむ」

「リダ、どうします？」

リダ、全員の資金を徴収しました。
やだなにこの強権発動。
オバハンパワー

「死にたい？」

「ゴメンナサイ」

…さて。

全員分の資金（3000G）でリダが購入した物を各自で分散して持つ。

ポーション 回復薬	x	2
アンチドット 毒消薬	x	2
水ボトル	x	60
黒パン	x	60
干し肉（1食分）	x	60
オレンジっぽい果実	x	60
バナナっぽい果実	x	60
たき火セット	x	1
テント	x	1

……

…
残金125G

…
狩場占拠する気満々じゃねえか！
フロント キャンブ パワーアップ しるこ
前衛だけでも装備更新…とか普通は考えるもんだが。
いすわる ほきゅう
長期戦前提で兵站重視かい。
くろつと
間違い無く廃人だ…

荷物を各自分担して収納し、出発した。

クエスト
NPC探索に駆けずり回ってる同胞を尻目に、さっさと城壁の門から外へ。

ちらほらと見える子兎と、ラビットそれを追っかけ回して攻撃してる人間共。プレーヤー

「あれノンアク？」

「ぼいねー」

「もう少し空いてるとこ行きますか」

「ok」

多少街から離れた所に移動し、周囲の雑魚敵を狩り始めた。
けいけんち

初期Lvでも狩れる雑魚だけあって、えもの集団戦ならまず苦戦する事は無い。
タコなぐり

幸い周囲にそこその数の子兎、ラビット甲虫、ビートル大蚯蚓といった雑魚敵が居るので、さくさく移動狩りである。
ワーム

枯れ気味になると盗賊がちよつと離れた所から持ってくる。
シーフ

雑魚だけに再出現リポップの時間も短く、高効率狩いいかんじになってる。

時間の流れが現実世界リアルと同期リンクしているのか？

オープニングオープニング舞台設定時間は午前おひるまえ十時だった。

その後準備して出発したのは、まだ正午おひるにはなっていないように思う。

それから…何時間経ったのだろうか？

ヒールンゲ
休憩を挟みつつ、

そくせき
野戦食風の食事を取りつつ、

モンスターポイント

敵の出現地点から少し外れた一角に野営キャンプしつつ、

交代で仮眠を取りつつ、

エンドレス

只管狩りを続ける。

翌朝になる頃には低取得経験値マズイかんじになってきたので狩場キャンプを奥に進め、
ひたすら、狩る。狩る。狩る。

二日目も狩る。三日目も狩る。

四日目の朝、食糧が底を尽きたので一旦街に帰還。

既に構成員メンバーの平均Lvが2桁突入とか、やだなにこれ怖い。

街に戻ると、冒険者ギルドにて取得素材をさばいた。ドロロツプ

兎の毛皮、兎の肉、兎の尾、甲虫の殻、甲虫の顎、銅鉱石、錫石、
蝙蝠の羽、蝙蝠の牙、蜂蜜、虫の羽、etc…

カバンの中の大量在庫にせつが一気にさばけたのはありがたい。

その資金で前衛武装強化パワーアップと後衛用呪文書買込バージョンアップを行う。

やっと初級回復呪文ヒール以外が使えるようになるぜ…っ！
そして大量物資買込。おかわり

準備が終わればまた戦場フィールドに移動。もてる

そして好条件狩場独占を再開するのであった。キャンプがり

無論、俺の仕事は変わらず、活動する前衛に初級回復呪文ヒールを飛ばす作業である。クレリック
ビヤッホイ
ノウキン

「——もう疲れたよパトラッシュ…」

「いいから戦闘に集中しなさいっ！」

（続く）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5989u/>

そんな僕らの My Life

2011年7月24日11時02分発行